

大清光緒廿一年

本館新開禮拜外日日出
紙一諸君賜閱本報者無論
本埠外埠均可預致本館取
閱如外埠閱報預加郵費可
也除日報照常刊送外復不
惜工本從英國採辦釘書機
各機器以待與各官商
刊印書籍單件並有英國各
種活字及各式花邊等延有
西人排印工藝甚精所有中
西文字均能刊印前有石版
印字大小均用精工刊

第四千一百七十七號

申報

(本館開設在舊巴路口門牌第十一號)

印工級絕倫前延有文士書
寫各體文字現由上海購到
各種香籍出售其書目另行
刊佈所有各項價甚相宜再
本館所登來札原擇其有關
世道人心者附登否亦須無
礙於人而後始錄其有謬不
成文以及支離費解者概不
登報嗣後請翁來札尚祈
自諒更須寫真附里而後放
登但來稿登與不登均不能
將原稿收回也 本館謹白

乙未六月初九日

大英一千八百九十五年七月三十號 禮拜二 每張售錢五文 每月一元 每季三元 每半年五元 每年十元 凡告白者請向本館接洽

添募採訪 ○啟者本館欲再添募採訪人一名其人須熟悉地情且結交廣而聲氣兼通
諳各籍方言兩辦事勤謹公平者方能合用 諸君有欲承斯乏者請至本館面商可也 本館謹啟

中日高明細地圖發售 ○啟者本館新由上海寄到中日高三國地圖全圖二款均屬精繪異
常所有道里之遠近經緯之錯綜以及府廳州縣城市山林一一列圖此外如鐵路電報河道長城國界
省界等莫不羅列井然燦燦若列眉令人一覽而知無煩細索且經設色令人易於辨別誠有心時務者不能
不備之物惟此地圖寄來有限 諸君有欲購置者祈速 惠臨選購為盼 本館謹啟

新印電報冊發兌 ○啟者本館所印電報冊乃精心結構而成復復細心核對毫無訛誤是以印
成之後即已四處風行莫不喜購爭先未幾即經售罄而來問者仍復源源不絕茲本館更不惜工費將此
電冊重新編定所有號碼眉目尤為清楚可謂尋髮之閱亦無遺憾洵稱全美現此電冊經已告成惟所印
無多欲購者尚祈從速 惠臨為盼特此佈告 本館謹啟

紀西報述太監被劫而論其事

上海新聞報載文滙西報發北京閏五月初六日來信云中國弄權太監及賊汚官員若不剷除淨盡萬無
朝政肅清之一日昨聞有一小太監年甫十六歲夙蒙皇上及皇后優待該太監因為其官貴緣要缺得受
重賄計銀五萬兩該太監從未見此多金頓覺心花勃發大有乞兒暴富之態置買產業房屋並娶美婦為
妻置辦車馬身穿華服每恣情游蕩首領其內監見而疑之以為各太監先曾公置簿籍一本上載其實
某事某缺得賄若干逐一詳開以便眾人均分乃該小監不照此例殊違定章遂糾約同黨太監數人先在
僻處地方改裝埋伏一面使人伴勸該小監出外買物俟其既至伏兵齊起將小監痛毆一頓並在身內搜
出三萬兩銀票一紙及客票多張嗣因該小監係上以垂注之人未敢遽行殺害但閉置空屋中以觀動靜
詎一日午後 皇后傳喚該小監不至當經首領某內監以出外未還之詞回奏次日又問該小監因何不
到其內監答云現已出帖尋找聞其身扶重資恐不免被人劫掠深宮見連日查無頭緒大為震怒嚴飭吏
提督府查緝九門提督恐于天譴又以該小監身處禁地決非外人所能誘拐務派官兵番役人等上緊在
左近地方尋找事為該黨所知慮被拖累特於夜間將該小監縱放小監雖隨該黨改裝不能認識其面但
聲音尚能記憶既得釋放即在旅店權宿一宵次早回宮方欲進內當差適見 皇后出宮即伏地痛哭將
被劫細情一一奏訴 皇后飭交九門提督務將該小監被劫緣由查還否則責令賠償旋經查出情由悉
置同黨諸太監於法當查抄各太監內室時 皇后親立門口督率故無敢有私藏一物者後又查出簿籍
一本 皇后取而觀之內有某大僚某親王親王大臣竭力勸其不必深究將此簿焚燬以滅其迹皇后再
之底蘊畢露無遺 皇上意存寬大命恭親王親王大臣竭力勸其不必深究將此簿焚燬以滅其迹皇后再
四不允是以凡與某大僚往來之人聞知此事恐遭牽連不敢再通書信矣現聞某大僚再三乞假 皇上
皆不允准唯作斃之人自來無不發覺不過時有遲早耳未悉此案將來作何辦理云云此上海文滙西報
語也愚不禁竊有所疑焉查內監弄權敗壞國事歷代以來彰彰可考我朝鑒於前明之失所有內監祇供
奔赤之役從不假以事權豈十六齡之小監可任其從中播弄乎况年甫十六尚屬少年不更事外官縱有資
緣未必向彼囑託即謂為 皇上所寵信亦不過稍假以詞色斷無聽彼受人賄囑之理即此數端已覺礙
漏百出况聞本朝太監向選民間小童充當至十四歲即行發出初未嘗淨身入宮至十四歲後若頻意留
宮服役始行淨身向有成例今該小監年屆十六其已淨身可知乃謂其得有巨賄即置買房屋娶美婦為
妻更難取信且既有家有室何處不可儲藏乃數萬銀票必時時携帶身中致被同黨劫去似亦無此道理
至去搜出簿據皆外官諂托之事 皇上意存寬大不涉深求夫納賄賍貨終非罪究游 皇上又何所顧慮
而不求深求乎且 皇上既不欲深求 皇后諒難違拗即或不允 皇上儘可對其自言而謂其托恭親
王及諸大臣代為力勸更屬可笑况輕王大臣力勸矣而 皇后仍再四不允必欲究辦有是理乎似此無
稽之談頗近齊東之語有識者諒未必遽為輕信然謠言之起未必無因想因太監門進椒殿毆王惡聲一
案爾故附會其說也

日革爾將希夷者照該部所擬斷監候秋後處決此

中日電音 ○初五日英京發來電報云現在日本欲再向中國討項七百五十萬磅此款係將滿洲之地退還中國之故云云按俄人退還遼陽之舉并非中朝與之商議此乃俄人從俄所命故前者日人擬向中國索償此項而中國諒諸俄國曰此事俄日所議之件安得向中國索償云云今接來電又有此言不知中朝表議公究將何以報覆也

中法定約電音 ○初五日英京發來電報云現在中法兩國訂有條約一紙其大意則中朝允准法國在中國南方酌量設廠以通商旅并准法國設立領事於此以資保衛中國更准法商在北各省開採礦務并為之保護利權更任法商輪船在瀾江及漢江一帶航行云云觀此條約事事將就法人想其中必另有密議法人已允中國如何出力是以中國有此議之也

意國電音 ○初五日英京發來電報云現在羅馬都城議論紛然謂意國別廷意欲起兵往刺帶奧地尼亞之尼牙士部於云云按該處之亂日非一朝意廷竟因循至今始欲動兵此事即能有成亦恐其夫之已晚矣

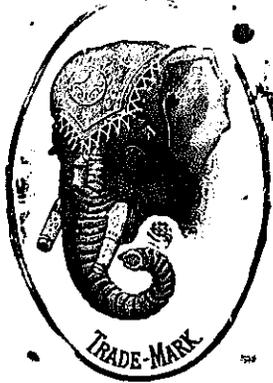
道維往事 ○昨報重興艦隊一則言中國前著添購魚雷艇三艘已命請前督劉公使侯協戎等督帶云云茲悉葉協戎已無志功名力辭遂被故此蓋即由劉督帶將領先海軍游擊劉子英英官冠雄等駕現部督已借同接船委員直隸候補道州知州借補海軍游擊陳幼州直刺恩惠文案遂高啟廣文翔輝諸君率領水手人等附搭德國郵船西渡於初六晚道經海濱君子乃順為登陸訪詢知交本館主筆因與諸君接談藉悉其中梗概蓋中國此次所購魚雷快船實共二艘係在英德兩國船廠承造英國哈士當即購所造者名曰飛霆德廠所造者則名飛鷹而英廠之約則在德交收是以中國特委劉陳兩君往為收接也當劉陳所到之際有論以丁禹廷軍門生死確情者據云軍門之死委屬實情當其仰藥時係在定遠船中死後始經載回劉外島海軍提督衙門收殮當時將領及弁兵人民等觀者盈千累萬并有道員二人及西人等在場目擊耳聞如此其眾倘有假冒何難立破其言如此然則丁軍門之死事實果彼各處所言軍門降於倭人者乃道途之謠味耳劉君又謂海軍所以株守威海一口事有所因緣當日德軍將至之時曾奉密諭詢威海一口果能保守與否若自問果有把握則宜堅守勿去倘萬不能守則暫率諸船南下云云旋由軍門覆稱若果陸軍能與之聲勢相聯且軍械糧餉足支儘可守而勿失等語當時東撫李中丞秉衡慷慨陳言自許以陸軍獨當一面於是奉旨守該口以重根本迨至本年正月初五早威海東口露白不戰而失軍門即飛稟請救旋奉傳相電覆著其設法守若能至上元之日則援軍自能大集云云於是軍門仍盡力支持迨至十八日仍覺所守成虛不過至是日援兵竟覺寂然時敵勢日亟遂遠管駕劉子香領軍知事不可為先於是日自盡而軍門仍盡力支持迨至十八日仍覺所守成虛不過已乃為之繼死然當軍門服毒之際適召眾將至前日吾受 國家厚恩本欲率領各艦再與一戰所奈船中火械俱絕絕戰亦斷無勝理不過徒令汝等同歸於盡究何所益且我中國海軍人才今尚患其不足不如姑留眾後輩以為他日復仇之計吾一身受斯重害死固吾分夫復何言但我死之後爾等宜臥薪嘗胆毋忘今日之恥力圖興復以報前仇可也言已眾將聞之多有為之泣下者時軍門已解服藥各將方為之勸慰須臾藥氣發作遂不能言嗚呼英雄末路如此收場亦可哀矣以上皆劉陳各君到後所敘述情形其餘所說尚詳限於篇幅不能盡畫爰摘其要者略加詮次而錄之以補前報之所未及云

遺勇紀聞 ○天津友人來信云榆關內外各軍多至二三百營所發口糧以及統領營官弁薪水經費取支於糧臺轉運局者其數浩繁現在中倭和議已成不得不籌節流之法聞新募湘淮各勇人說尤多將發與餉若干由統領帶帶各營赴原招募處妥為遣散月初當道行知一切並委周金聲軍門蘭亭會同辦理所有豫凱全軍已於初十日開火車一水由榆關陸續運津取津分別留遣某軍統領領直隸人甫接撤防文件不與營哨離弁商議頒發正餉餉事遽將全隊撤回部下健兒 聞此令幾如晴天霹靂皆懼其當送餉約不繳軍裝擬拾劫糧臺上所貯之銀以抵餉項李馬勇尚稱安堵亦應糧臺保護所失糧米若干不得已除正餉外各領恩餉一月各勇始紛紛呈繳軍械被衣

詳泉二則 ○初五日上午十點鐘有第二百二十七號暗探外出後巡道經丁路適有一線人向該差稱謂有潮人朱亞和甯有偽銀甚夥將經是處請為緝獲未幾朱果與有第三千八百六十號手車迎面而來差即詰而搜查果獲偽銀廿四元故將朱拘逮於案初六日辛太守提訊發以雁鼎行騙胆玩異常爰將該案上詳臬堂核奪又前報暗探總差於去月廿七晚八點鐘時赴於日本街第六十九號門牌閩人梁柴宅內搜得有私鑄銀模一具及各式器具全副并有偽銀二兩該總差因將梁拘執逮案前經辛太守提訊一次至初六日太守復為研鞫嗣以案情重大併將該案上詳臬憲移訊云

車夫被凌 ○閩人陳述向以奉手車為業初五日上午九點鐘時陳適至中街路距加箭路二英里之處適有俄拉油人砂力班僱陳車與至新豐里街迨抵該處砂則薄給其值陳不甘因求益與班砂撒行入多端辱罵并逞強強繼以用武陳弗敵被砂毆落齒口血涔流陳因呼差將砂拘逮於案初六日輕府尊提訊以砂無理逞兇爰判罰砂銀二十五元無銀呈改禁四十二日以作抵銷

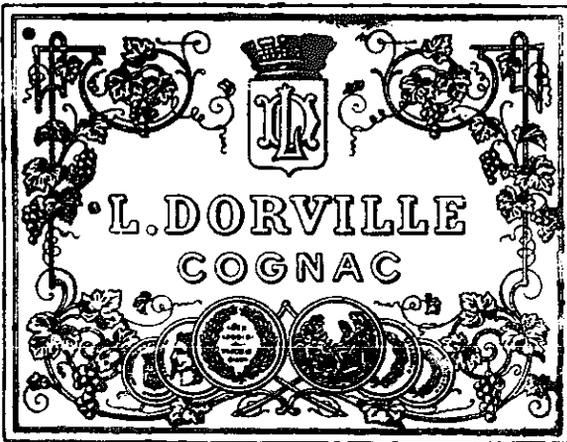
象頭標蜜酒出售



啟者本公司出... 督辦... 象頭標蜜酒來助專為
實得力... 酒氣味香醇且能除煩解渴於實
德力士地最... 自... 合... 用... 特將其... 式... 列
報中俾爾等一覽而... 式... 購取倘蒙
光顧請至舊巴

恩街萬興號右鄰本公司細認象首標為記庶不致誤價
極平特此... 聞
大英一千八百九十三年元月廿一號
新嘉坡買公司謹啟

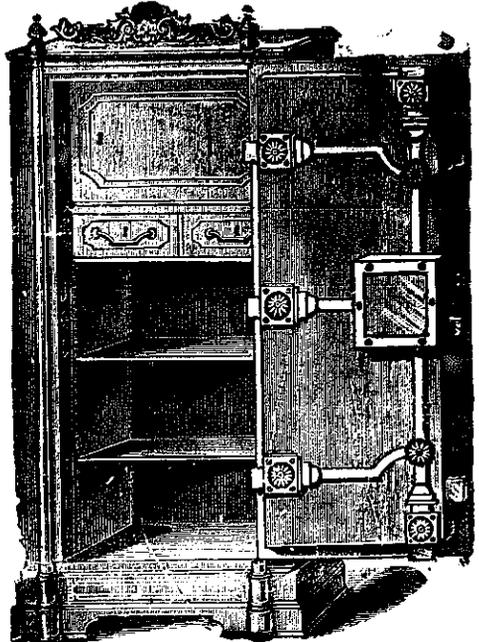
正金鐘標萬國池酒出售



啟者本公司所督辦正... 鐘標萬國池酒久已馳名... 諸君
君子均喜用之... 現已... 定與本... 公司包... 以... 應... 答... 估... 凡... 購... 者
有欲... 購者請至酒... 公司估... 價... 便... 得... 如... 買... 或... 起... 以... 便... 配... 往... 外... 處... 者... 仍
可至本行估... 價... 至... 此... 佈

造製之法
精妙異常
酒味甚清
以之蒸餾
者皆為上
等之料保
無偽充之
弊此酒若
在本坡沽
本甚... 合
宜且價亦
甚廉... 諸
君沽用須
為留心辨
明... 之
... 上... 者... 甚... 多... 以
... 假... 貨... 幸... 勿... 為... 之... 誤... 買
... 大... 英... 一... 千... 八... 百... 八... 十... 九... 年... 十... 二... 月... 三... 號
... 不... 殺... 呼... 魯... 即... 前... 加... 珍... 洋... 行... 謹... 啟

啟本號... 辦... 往... 各... 埠... 開... 列... 如
左... 在... 各... 埠... 往... 實... 日期... 在... 實... 助
往... 麻... 六... 甲... 往... 逢... 禮... 拜... 一... 各... 埠... 五
日下午四點鐘開行... 由... 麻... 六... 甲... 往...
芙蓉... 逢... 禮... 拜... 二... 六... 日... 中... 午... 十... 一... 點
鐘開行... 由... 芙蓉... 往... 吉隆... 坡... 每... 逢... 禮... 拜
二... 六... 日... 下... 午... 六... 點... 鐘... 開... 行... 回... 實... 助
則... 日... 由... 吉隆... 坡... 回... 芙蓉... 逢... 禮... 拜
二... 四... 日... 下... 午... 四... 點... 鐘... 開... 行... 由... 芙蓉... 往...
麻... 六... 甲... 每... 逢... 禮... 拜... 二... 五... 日... 上... 午... 十... 點
鐘開行... 由... 麻... 六... 甲... 回... 實... 助... 每... 逢... 禮... 拜
二... 五... 日... 下... 午... 四... 點... 鐘... 開... 行... 另
日... 有... 輪... 船... 在... 麻... 六... 甲... 吉... 隆... 坡... 實... 助
午... 每... 逢... 禮... 拜... 五... 日... 一... 點... 鐘... 開... 行... 特此
佈... 聞



啟者本行所售之鐵... 在... 本... 埠... 馳... 名
已久... 諸... 君... 購... 用... 無... 不... 盛... 稱... 其
妙... 計... 此... 廚... 之... 大... 小... 共... 有... 五... 種... 而... 價... 亦
最... 廉... 一... 百... 元... 以... 上... 而... 此... 鐵... 廚... 乃
歐... 洲... 著... 名... 工... 師... 所... 製... 極... 為... 善... 本... 埠
所... 有... 人... 西... 商... 智... 人... 以... 及... 什... 他... 商... 生... 理
諸... 君... 取... 多... 向... 本... 行... 購... 買... 以... 為... 貯... 銀... 之
用... 因... 本... 行... 所... 沽... 者... 均... 用... 頂... 上... 物... 料... 製
造... 而... 成... 不... 惟... 能... 壯... 觀... 瞻... 且... 具... 常... 堅
固... 無... 論... 火... 燒... 盜... 劫... 均... 保... 無... 虞... 實... 與... 眾
不... 同... 莫... 此... 此... 甚... 倘... 諸... 君... 有... 欲... 購... 此... 廚... 以
收... 藏... 重... 寶... 可... 至... 本... 行... 選... 閱... 是... 幸... 此... 佈
英... 一... 千... 八... 百... 九... 十... 年... 元... 月... 四... 號
不... 殺... 呼... 魯... 公... 司... 謹... 啟
加... 珍... 洋... 行... 謹... 啟

簡在帝心 ○中國使臣公使之缺前者傳聞擬派伍秩庸觀察前往嗣又聞有簡派胡雲梯乘訪之耗議論紛然莫衷一是茲接上海來信內言此事則又有與前等迥殊者究竟此事孰實孰虛尚難懸揣惟照其說而誌之以符有聞必錄之體而已據云探得中國駐日欽差大臣已由 皇上簡定陳葆昂星使前往接星使現在江督幕中素為張香帥器重此次膺皇華之選定能不辱君命聞星使不日由金陵動身大約於廿四日可以蒞滬云

高事近聞 ○字林西報述訪事友自高麗來信云日人之意欲使高王妃及其親屬無權然聞王妃近仍干與國政且王妃之表兄弟二人均已陞至第一等爵位可見高王有不喜日人之意日人於高廷大政未能參斷也○前聞俄國欲將在高之日人悉令出境此事頗不容易蓋因沿海一帶皆有日人船隻此等日人多用脫船裝運貨物偷漏關稅且岸上日人數亦不少○高麗北省居民近患霍亂日本運船上之工人亦染此症據某日報言近悉某處高人於三日內患霍亂而死計共百人

駝牛案詳泉 ○前報閩人施肥猪被與呂人仁靈控告刺斃其牛一案查施肥猪原名薛打鐵此案於初八日已由府尊訊定惟以案情繁重命詳泉堂核奪

輪船行踪 ○本坡指示必洋行之海得刺輪船向由叻常川往來網略茲悉該船嗣後來往沿途順至暹羅各埠一行茲將所至各埠開列如左 萬倫 日惹 六坤 宋卡 大啤 吉蘭丹 丁加勞 按以上各埠頗有華商寄寓於斯今有火船以期往來其利便者正殊不鮮也

滋事罹罰 ○膠拉油人亞星住居列申律第五號門牌初六晚八點餘鐘時不知何故忽有同籍人十餘名擁至門前肆拾瓦石紛然擲入竟將堂前所懸之火水燈擲破火光迸發幾至成災嗣經家人集而撲救亞星即追出鳴捕因而執獲一人名曰里那初八日送至府堂審訊果係是晚擲石之人爰判罰里那銀十元以為滋事者戒

中船遇險 ○閩人洪寶向在金合利中船充當水手前日該船由峇株巴葛載運碩莪來叻初七早四點餘鐘之際已駛至石叻門港距坡不遠忽然海風暴作收帆不及至其桅被風拔起落於海中船篷亦被風力揭去時寶正在船中操作因被風吹下海中所幸得持片板不至遭沉時該中船亦不能駛行漂流海中任其所適迨至天色微明之際始有三板由龜咯來叻道經其地將洪救起送至叻中洪亟往船東處報聞立催小輪前往覓得該中船因將其拖回叻地船內諸人雖不至死然已受驚不淺矣

控案無憑 ○前報閩人林賽控其同籍人陳厲陳查某水木三人在丹戎隅港搶去鑽十五元另雜貨等值銀三十元一案迭經府尊堂訊兩造均延有狀師代訴至初五日始經訊畢以原告所控情節未可為憑因判被告為無罪案遂了結

竊案二則 ○初八日巡理府提訊竊案一則緣有閩人黃倒於初六日至丹戎巴葛船澳內盜竊白鉛二片值銀一元因被澳差所獲解於府案是日府尊提訊判將黃監禁三個月之期示儆同日提訊竊案一起被告瓊人李光與於初七夜十二點鐘時至巴耶黎律示祥美花園內竊去銀鍋二只值銀二元四角因被園丁所獲交差解於案中是日訊畢後亦判將李監禁三個月充當苦工示儆

歸養林泉 ○直隸臬司周玉山廉訪稔籍隸院江寄寓邦上去歲海疆不靖廉訪奉大府 奏委督辦北省轉運事宜半載於茲倍嘗艱險適因中東和局已成籲懇督憲王慶帥 奏請開缺仰蒙 恩准廉訪遂將省中轉手事件料理一清於前月中起程南下本月初八日舟抵維揚地方卸委各官出城恭送廉訪逐一請見畢旋即命駕登岸回新城東園門公館翌早寅僚鄉友爭往問安冠蓋盈門異常熱鬧自今以往種梅餉鶴鹿豚長吟山水怡情優游林下宜成之樂雖地行仙亦無以過之矣

西樵道署 ○廣州來信云廣東鹽運使英續郵部轉前因政體違和請假兩月茲者假期已滿仍未安康督撫憲以治理需人飭回本任都轉不得已赴節轅銷假出吉閏五月初一日卯刻接受關防○馬玉山中丞偶患痼疾初為庸醫所誤投以補益之劑以致病勢更重後改請某茂才進以消暑去濕之品遂獲安痊現已照常辦事矣○閩省總商劉學詢從前轉黃綠得拜李筱帥門下繼復結納後帥署中諸權要竭力逢迎於是倚勢橫行無惡不作人之受其魚肉者皆畏其兇鋒敢怒而不敢言乃自李制軍解任後人即羣起而攻前由周番舉人陶繼昌糾合諸紳聯名稟計劉自知勢衰力弱派人調處願借孔方兄解圍旋又有吳某者開列劣蹟多端赴撫稟控馬玉山中丞批飭從嚴查辦似此一波未平一波又起恐非錢財之力所可轉圜矣某日南海縣借憲委某員督率兵差親赴劉家勘驗一週為將來查封地步而劉已借香港為遁逃之數計財產早輕悉往一空矣

京報選錄 ○郵傳部官刑部尚書臣松澂等 奏為審明大監致駱人命按律定擬恭摺具奏仰祈 聖鑒事竊光緒廿一年四月廿三日奉 上諭都察院奏直隸涿州民人王鳳鳴以斃命私埋等詞赴該衙門呈訴據稱大監門准幅毆斃伊弟太監王志聲並有私埋滅迹情事所控是否屬實亟應嚴切根究着內務府將門進幅送交刑部訊明辦理欽此旋經該衙門抄錄原奏連原呈咨送前來據內務府交出門進幅解送到部臣等督飭司員訊據大監門進幅供認致傷太監王志聲身死屬實隨會同都察院大理寺親提審訊緣門進幅籍隸順天寶

門進幅解送到部臣等督飭司員訊據大監門進幅供認致傷太監王志聲身死屬實隨會同都察院大理寺親提審訊緣門進幅籍隸順天寶

編與已死王志裕... 時常託門進幅... 門進幅用竹板... 水昏迷不解... 領任得前及... 當即解明... 查明王志裕... 誤聞不識姓... 伊弟同班... 悉前情... 將趙小泰... 查知早轉... 誌登屍棺... 備綠督候... 巡防緊要... 渣甸火船行期... 月五號即華... 英一千八百... 管業聲明... 已領到國家... 清楚若過... 及一切詳細... 往來交易... 印字機器... 大英一千八百... 工部局告白... 千八百九十五年... 大英一千八百... 工部局告白... 車均不准其... 件有與各... 大清光緒廿... 輪船出廠... 者請到...



渣甸火船行期 ○啟者茲有渣甸火船名永生大有二千三百三拾九噸於西本月廿七號即華本月初六日由刺吉打起程定於西八月五號即華本月十五日即能抵助上落客貨畢即展輪往 香港等處 諸君有欲附貨搭客者請至本行相酌為望
英一千八百九十五年七月三十號 大清光緒二十年閏五月初九日 莫實德洋行謹啟

管業聲明 ○啟者氏先夫許孟欽業於本年四月十二日逝世其所有遺下產業及恒春號所得名下股份生理概交氏為之管握經已領到國家印砂字據惟先夫前向與人代揭各親友銀項及自己交易往來單據者茲限於十四日內祈即前來新巴剎恒春號與氏查核清楚若過限不來備為自便此後縱有先夫名字揭單概作視為廢紙此佈 光緒廿一年六月初八日 許李氏秀珠謹啟

荷蘭駐劄總領事官告白 ○啟者茲於西本年內欲在加刺巴拍賣國家羔不九萬八千三百五十六担倘 諸君欲知其拍賣日期及一切詳細章程者可至本總領事署詢問便得特此佈告 大英一千八百九十五年七月廿三號 署荷蘭駐劄總領事官弗羅羅謹啟

印字機器出售 ○啟者茲本館有手扳印字機器大小各一張欲出售與人 諸君有欲購用者可至本館面商便得特此佈告 大英一千八百九十五年七月廿四號 長老會堂印字館謹啟

工部局告白 ○啟者茲因擬將甘公爪亞路填高更用石鋪砌計此路自淡申路之橋頭起至武吉智馬路及士葛路邊止茲定於一千八百九十五年裕來月二十六號即華本月初五日起所有各車均不於此來往應俟修理告竣之日再行通知照常來往特此佈 大英一千八百九十五年七月廿四號 工部局司理人波兀刺士奉命謹啟

工部局告白 ○啟者茲有高麗佛橋即附近梧槽自來火局之橋現須修理定於西本月廿九號即華六月初八日禮拜一起所有各車均不准其來往俟至修竣之日再行通知此佈 大英一千八百九十五年七月廿四號 工部局司理人波兀刺士奉命謹啟

辭影聲名 ○啟者做就向用新會人甘萬南在店司理事宜不意該件所為不合茲經查明業已將其辭退用特聲明佈告嗣後該辭件有與各 寶號往來交易以及賒項等項均向經手是問與本號無干特此聲明免滋後論 大清光緒廿一年六月初二日 漆木街廣和生號謹啟

輪船出廠 ○啟者做就現有輪船一艘名曰金和號大約一千八百担之譜茲欲將此船出讓與人倘 諸君有欲承租此船往來各埠者請到嘉坡游船街向本號協榮茂號面商便妥特此奉 聞 光緒二十一年六月初二日 廖內寶和興號謹啟

輪船出廠 ○啟者做就現有輪船一艘名曰金和號大約一千八百担之譜茲欲將此船出讓與人倘 諸君有欲承租此船往來各埠者請到嘉坡游船街向本號協榮茂號面商便妥特此奉 聞 光緒二十一年六月初二日 廖內寶和興號謹啟

荷蘭駐劄總領事官告白

鴉片烟碼係以鄂內及其轄界下全境為界
猪肉碼係以鄂內及鄂西鄂東內所轄者不在其內
酒碼係以鄂內及其轄下全境為界
以上各碼係承辦一千八百九十六年一載為期或承辦至一千八百九十七年及一千八百九十八年三載之期均無不可
所有各碼均定於西本年八月十七號即華六月廿七日禮拜六早十點鐘在鄂內之丹戎檳榔出投 諸君有欲承充者祈至本署詳
查担保各事宜俾得如期前往投充可也特此佈告 大英一千八百九十五年七月廿三號 署荷蘭駐劄總領事官弗羅羅畢啟

荷蘭總領事官告白 啟者茲有慕娘轄下西境之鴉片烟碼欲招商投充本辦此碼係承充一千八百九十六年一年之期或承辦
至一千八百九十七年一千八百九十八年三載之期均從其便而此碼則定於西本年實添末月九號即華七月廿一日禮拜一上午九點鐘
在坤甸參政司署當眾出投 諸君有欲承辦者請如期前往投充可也特此佈告
大英一千八百九十五年七月二十號 署荷蘭駐劄總領事官弗羅羅畢啟

荷蘭駐劄總領事官告白 啟者茲有望加麗及其轄下之望加 高模 丹拿浮底各地之賭碼猪碼又望加高模丹拿浮底之當
碼招商承充此碼係投一千八百九十六年一載為期或投至一千八百九十七年及一千八百九十八年三載之期均從其便而此碼則定於
一千八百九十五年實添末月二十三號即華八月初五日禮拜一在望加麗出投 諸君有承辦者請屆期前往投充便得特此佈告
大英一千八百九十五年七月四號 大清光緒二十一年閏五月十二日 署荷蘭駐劄總領事官弗羅羅畢啟

荷蘭駐劄總領事官告白 啟者茲有坤甸及其轄下四境之餉碼欲招人承充其地即峇庵巴華 士雅加錫 士加那那 蘭
大 打然 送眼 及施加刺等處所承之碼係以一千八百九十六年一載為期或承至一千八百九十七年及一千八百九十八年三載之
期均無不可各碼均定於實添末月二號即華七月十四日禮拜一上午九點鐘時在坤甸參政司署出投 將所投之碼開列如左 賭
酒碼 屠宰及沽賣豕肉碼 富碼 抽收洗金洗值賦稅碼 諸君有欲承辦者請屆期前往投充是荷
大英一千八百九十五年六月廿九號 署荷蘭駐劄總領事官弗羅羅畢啟

新得錫礦在仰光之馬里原地方 聞日裡務公司現經討地一所計有六百五十英里之廣其地坐落緬甸下游此地乃產錫之區
同該公司欲將此地與華人開採錫礦該華人可得管轄其地惟須照其現立之章程而行此乃絕好機會願勿交臂失之查此礦場自迄今三
十年亦已有人於此開採然不過略為挖取并未以鉅本為之今有此等善地則有志者不妨前往一觀諒必有一番事業至欲前往查看者可
至本坡轉與兄弟公司面詢便能知悉也 大英一千八百八十五年六月廿四號 大清光緒十一年閏五月初二日

電醫告白 啟者本醫生精究電氣醫術奇而不失於正前在法國巴黎都城售術凡輕診治者莫不交口稱頌茲到叻中聯登問世
主余醫症之法係以電氣為主以藥佐之其以下所列各症不惟速愈且能保其除根再無復發茲將所醫各症略開如左 半身不遂 痺
痿不仁 身熱虛弱 用木不調 脾土受病 腰脊酸軟 陽痿不振 色慾過度以至虛癆等症 一經診治即能斷定何時可能全愈若果
以余法醫之不但暫時少愈并可永遠除根前者余在印度時曾醫治各部諸侯王及西人士人等不能悉計凡醫愈者均蒙給有字據為憑
於此等醫法係余一人獨創在於印度一帶并無分枝茲到叻中寄寓小東陵第三號門牌即南末馬路對門每日在七庫花園邊第四十三
號門牌即麥加藥房樓上由上午十點鐘起至下午五點鐘止在本館內候醫至於謝儀一項務從廉取斷無苛索 諸君賜教祈即 玉臨就
商可也 光緒二十一年五月初八日 電氣醫生納基律謹啟

土庫出賃 啟者茲有土庫一間在於不紗質得力即陳聖王後街門牌第十九零一號一十九零二號茲欲出稅與人倘 諸君
有欲稅者祈至本店面議特此佈告 光緒二十一年五月二十日 英一千八百九十五年六月十二號 坤豐號黃金炎謹啟

華英字典寄售 啟者茲有人辦到華英字典數部託本館為之代估此字典內列中英兩國文字精細詳明且每部祇得一本機帶
圖冊均甚便捷 倘有欲究心中英文字者請到本館取閱可也特此佈告 本館謹啟

徵復惠函 啟者前啟告白業已有多日乃各埠 諸君函致本館囑寄報館前往者仍以一紙空函示前不詳及苦衷更有投
回本館前不黏貼印線是之故至今信信力益多賠累故特再為補白閱者鑒焉 本館再啟

賭碼係蘇門答臘內地係歸鄂內所轄者不在其內
抽收胡椒稅碼 係以鄂內及其轄下全境為界

荷蘭駐劄總領事官弗羅羅畢啟

蜜酒發賣

售出酒池萬國京峰上項國法

三品出品



TO BE HAD OF ALL WINE MERCHANTS

啟者本公司親由法國督辦
上好萬國酒池酒來助發售其酒
清香濃郁醇厚異常飲之誠可令
人長血氣壯筋骨悅顏色妙矣無
窮今市上所有萬國酒池酒無有能
出其右者誠佐酒中妙品也至此
酒從本公司一家括出餘無別家
出售 諸君光顧請細認蜂窠標
牌為記並細辨香味方不致誤價
甚相宜倘有到份之購者祈早至
本公司沽買是幸
大英一千八百八十八年六月二
十號
大清光緒十四年五月十一日
明鳴也洋行謹啟

啟者本行由歐洲辦到上等密酒來助發售其酒甚佳茲將標頭印
出 諸君光顧祈為細認免致有誤蓋聞有無恥之徒假冒本行鎖匙
標酒希圖目魚混珠最堪痛恨今本行再行核定於酒樽木枊內加鐵
烙鎖行形以示分別倘 有知何人假冒到請本行轉報即酬
紅銀二百大元經官訊定即能給發斷不食言此酒不能收往
加沙吧 三寶瓏 泗里末 望加錫 檳榔嶼 日裡等處
他各埠均能運往並此佈 聞
大英一千八百九十三年五月廿六號
大清光緒十九年四月十一日
明鳴也洋行謹啟



啟者本行督辦歐洲馳名三品酒池酒來助發售
其酒係白頭式醫藥有年沽飲 諸君莫不
稱其香爽奈近有無恥之徒假冒本行三品酒
款式以圖混珠情殊可恨嗣後 諸君沽
買本行白頭三品酒者請細認本行標牌之
有小包註明字號者方為真貨也
始即若此字樣即非真貨也
大英一千八百八十五年十一月十九號
明鳴也洋行謹啟



審思養生之道所最要者則惟儲蓄其大則惟儲蓄然必須有
此本行鐵櫃所以為 諸君之所共賞也啟者本行所賣之鐵櫃久已馳名於東
方一帶而於叻坡則聲名尤著至本行所賣此等鐵櫃已有三十年之久其製
為堅固保能避火且其匙鑰甚妙斷非盜賊等所能開計其櫃全身均用鐵製成
並無雜以木料且諸櫃自始至今均為一式堅固耐無
有優劣之分至於各櫃大小
不一而價則約一百元至
四百元凡用之者可保其不
礙燒燬即火災亦無所畏
行之誠實為叻坡華商
所喜購而本行每年所沽亦殊不鮮茲特為之錄佈倘
諸君有惠顧者祈即至本行選購為盼
大英一千八百八十九年十一月廿八號
明鳴也洋行謹啟

烏密酒發



啟者本行向由英國督辦
種美酒來助發售久已馳
名茲復由英新辦到黑
士斗雲字號之狗頭標烏密
酒到助應沽此酒香爽異常
不惟飲之可口且能保養精
神調和血氣常飲令人不生
疾病誠酒國中上品也 諸
君光顧應細看以上所列之
狗頭標庶不致誤且價甚相
宜倘 諸君有欲飲者請
至本行取用可也此佈
大英一千八百八十八年八
月十五號
明鳴也洋行謹啟

